

株式会社イーツ



新たなクラウド型サービス「快得クラウドSP」の基盤として
Cisco UCS C シリーズ ラックマウント サーバと Cisco Nexus データセンター スイッチを採用
きめ細やかな対応と優れたパフォーマンスで顧客ニーズに応える



導入ソリューション

Cisco Unified Computing System
(Cisco UCS) C シリーズ ラックマウント
サーバ
Cisco Nexus シリーズ データセンター
スイッチ

導入前の課題、検討事案

- ・サーバ単体として、高いパフォーマンスを發揮できるプラットフォームを求めていた
- ・複雑化する仮想化システムの運用管理において、障害やミスの発生を抑えたいと考えていた
- ・高負荷に耐えられるシステムを求める顧客に対し、サーバはもとよりネットワークのパフォーマンスも向上させる必要を感じていた
- ・主要なストレージ システムとの親和性も、サーバの選定における検討事案だった

導入効果

- ・ラックマウント型の Cisco UCS C シリーズにより、顧客ニーズに対応できる高パフォーマンス、柔軟な運用サポートを提供できるプラットフォームを実現した
- ・ネットワークとサーバのベンダーが揃ったことで、将来的な運用管理の統合も実現可能になった

データセンター事業を手がけるイーツは、高機能、高性能のサーバ製品を採用したクラウド型サービスの拡充によって、パフォーマンスと運用管理をサポートする柔軟性の高いサービス、さらにコストメリットを求める顧客のニーズに応えている。性能や管理性の高さなど諸条件を満たし、データセンター ネットワークとの統合管理も行いたいと考えていた同社は、シスコのサーバ ソリューション Cisco Unified Computing System と Cisco Nexus シリーズ データセンター スイッチを採用した。

導入のきっかけ——新サービスの基盤となる高性能なプラットフォームを求めていた

データセンター事業を手がけているイーツでは、顧客のニーズに応えるべく、より高いパフォーマンスのサーバ製品を用いてクラウド型サービスの拡充を考えていた。単体で十分以上の性能を發揮し、さらに今後の運用管理性向上なども念頭に製品の検討を行い、Cisco Unified Computing System (以下 Cisco UCS) と Cisco Nexus シリーズ データセンター スイッチを採用した。

シスコを選んだ理由——ネットワークとサーバの統合管理が可能。技術力の高さも評価

今回、シスコを選んだ理由としては、

- ・Cisco UCS C シリーズは、優れたパフォーマンスを發揮できるサーバ製品であること
- ・ネットワークとサーバのベンダーを統一することにメリットを感じていたこと
- ・ネットワーク技術や仮想化対応など、グローバルに高い技術力と実績を持っていること
- ・システムとして組み合わせる主要なストレージ システムとの親和性が十分保たれていることなどが挙げられる。

導入プロセス——ラックマウント型の C シリーズを採用。実地検証で顧客も満足

Cisco UCS C シリーズを採用し、顧客に応じたシステム構築を実施。ゲーム コンテンツ事業に携わる顧客に提案し、そのまま実地検証となったが、高い評価を得て不安を払拭した。

導入効果——高品質、高信頼のシステムとサービスにより順調な展開を果たす

- ・より高いパフォーマンスを求める顧客に注目され、サービス開始時点で複数の案件がまとまった
- ・ラックマウント型の C シリーズとしたことで、扱いやすく、またコストの把握も容易
- ・Cisco Nexus シリーズとの一元的な運用管理が行える環境を整えられた

今後の展開——仮想化技術を活かし、特化したサービスの展開を検討

- ・将来的にシステム規模が拡大した際には、管理ソフトウェアの Cisco UCS マネージャによる統合管理によって、システム全体の運用管理効率を高め、さらなる安定性、信頼性を実現していきたい
- ・ネットワークの強化を図り、顧客ニーズをより確実に満たしていきたい
- ・仮想化技術を活かし、ストレージやディザスタ リカバリなどのサービスも提供していきたい



株式会社イーツ
営業本部 販売推進部長
井手 浩三 様

導入の経緯

新サービスの展開にあたり高パフォーマンスなサーバが必要 ネットワークとの親和性も考慮して Cisco UCS を選択

ホスティングやハウジング、マネージド サービスなどデータセンター事業を専門に手がけているイーツでは、クラウド型サービスの拡充にあたり、システムとしてより高いパフォーマンスを発揮し、運用管理の負荷を抑制できる新たなサーバ製品の採用を検討していた。

同社のクラウド型サービスは、メニュー化された仮想化環境のリソースを画一的に割り当てる一般的なパブリック クラウドとは異なり、リソースを共有するパブリック型と、専用ホスティングによるプライベート型を顧客のニーズに応じて組み合わせ、最適なシステム環境を実現する点が大きな特長となっている。運用管理に関するオペレーションもサービスに標準で組み込まれており、非常にきめ細やかな対応を実施することで、顧客からはサービスの品質はもとより、自社のビジネスに注力できるとして高い評価を得ている。現在は、モバイル（携帯電話、スマートフォン）向けのアプリケーション開発や SNS 運営など、負荷の高い業務に携わる企業の利用が多いという。

最適化したシステムとして顧客に提供するというサービス形態のため、物理的なサーバ自体を同社で調達し、ストレージを含めた仮想化環境の構築を行っている。これにより、一定のパフォーマンスを常に担保したいという顧客ニーズに応え、同時にハードウェアの選定段階からコストメリットを生み出すことにも成功している。

今回、サービスの基盤となるサーバ製品としてシスコのサーバ ソリューションである Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) を採用し、パフォーマンスと運用管理性の向上を実現。また、ネットワーク スイッチ製品として Cisco Nexus シリーズも導入した。Cisco UCS をベースにしたシステムは、新サービス「快得クラウド SP」として、2012 年 2 月から提供を始めている。

営業本部 販売推進部長の井手浩三氏は、シスコを採用した理由について、次のように話す。

「ネットワーク上にリソースがあるクラウド系サービスという観点で考えたとき、ネットワーク製品とサーバを同じメーカーで揃えられることは、メリットの 1 つと思います。高速なネットワークがあり、その向こうに仮想化されたシステムがあるという形態になるので、それらを統合的に運用、管理できるのは Cisco UCS ならではでしょう。将来、規模が大きくなったときも、より簡単に管理できるようにすることで信頼性を高め、また人員やコストを抑えてサービスの価格に還元できると考えました。運用管理が容易になるのは、障害時の対応にも大きなメリットがあります。システムが仮想化され、複雑化していくなかで、ミスの発生を極力減らして安定的な運用を保つことは重要です。」
ネットワーク ベンダーとしてのシスコの技術を高く評価していることも、採用の理由だったとのこと。「スイッチングや仮想化への対応をはじめ、技術の面で世界トップクラスの実績があるので、安心感があります。より安定したシステムをお客様にご提供する上で、シスコが最適と判断しました。主要なストレージ システムとの親和性も選定のポイントでしたが、その点も問題ないと思っています。」



導入プロセス

サービス形態を踏まえてラックマウント型の C シリーズを採用 顧客との実地検証で高い評価を獲得

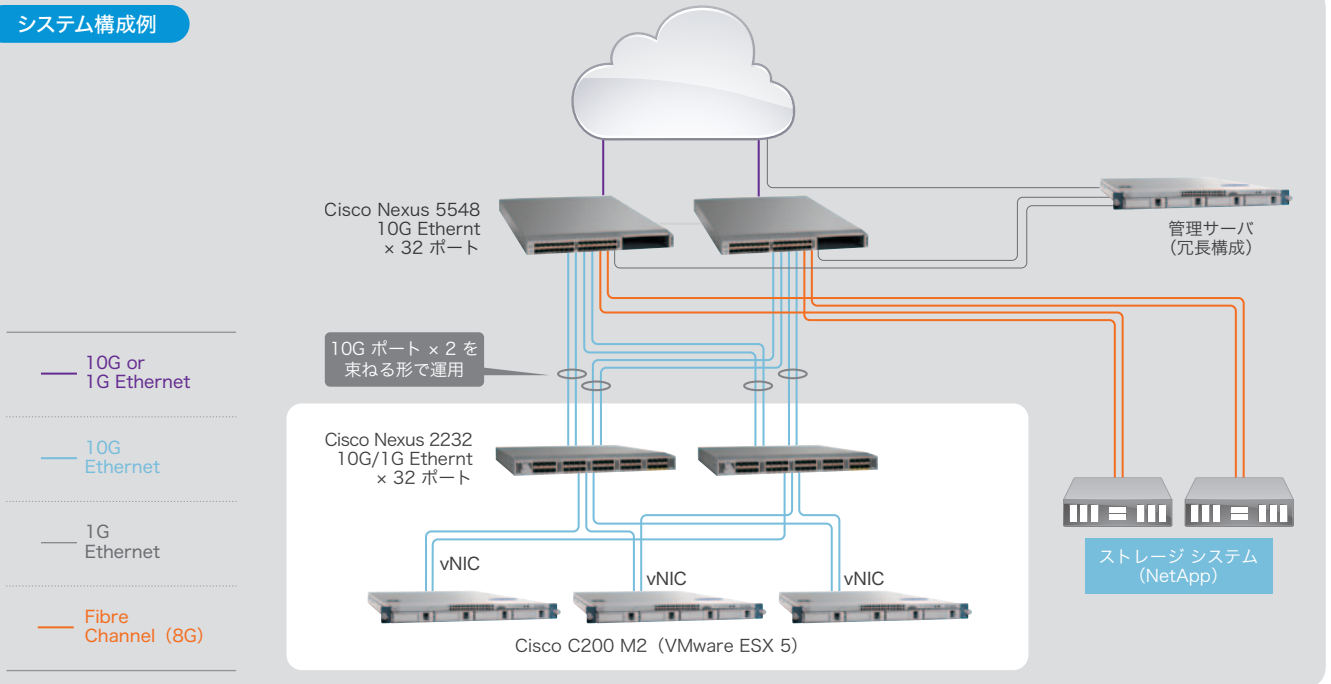
採用された Cisco UCS は、ブレード型の B シリーズではなく、ラックマウント型の C シリーズとなっている。顧客ごとに最適化したシステムをサーバごと納品するため、こちらのほうが扱いやすいと井手氏は話す。

「従来からの手法を踏襲しているのですが、万一故障した際もユニット単位で入れ替えればよく、コスト的にもわかりやすいと思っています。ブレード型のシステムは、後で拡張や増設を行うときに対応しやすいのは確かですが、初期投資が大きくなりがちなことや、収容するデータセンターの電源や空調を含めた設備面も踏まえると、弊社としては少し扱いにくいと感じています。サービス価格を含めたコストメリットの面でも、ラックマウント型の C シリーズのほうが適していたのです。」

サーバ ソリューションとしてシスコは後発のため、最初は不安もあったという。しかし、顧客の要望に応じたシステムを構築して実地で検証を行い、優れた評価を得られたことで、安心感は大きく高まった。

「数十万人規模で PC とモバイル向けにゲーム コンテンツを提供しているお客様が、システムの移設とスマートフォン対応を図りたいということで、Cisco UCS で構築したものを弊社からご提案しました。高負荷に耐えられるシステムとしてそのまま運用と検証を進め、弊社のサービスはもとより、システムのスペックにも高い評価をいただきました。もともと 10 台ほどあったサーバ環境と同様の処理を、3 台の Cisco UCS C シリーズで実現でき、お客様が想定するパフォーマンスの期待値も十分に満たせましたし、システムの規模、コストの点でも大きな効果がありました。」

システム構成例



導入効果～
今後の展開

新サービスへの注目は高く、顧客への展開も順調 ネットワークのさらなる増強や特化したサービス展開を検討中

新サービス「快得クラウドSP」は順調な滑り出しで、提供を開始した 2012 年 2 月の時点ですでに複数の顧客に納品を完了している。目的に応じて適材適所の使い方ができるよう、きめ細やかな対応を行う同社のサービスに注目する企業は多い。

「最初は一般的なパブリック クラウドのサービスを使われたお客様が、そこで充足できなかったニーズを満たすために弊社のサービスを活用いただくケースが多いですね。今はちょうどスマートフォン、特にゲーム業界のお客様が高機能で使いやすいプラットフォームを求めており、そこに最適なサービスをご提供していければと思っています。快得クラウドSP は、お申込みから利用開始までのスピーディな対応も特長ですが、シスコやディストリビュータの皆様と緊密に連携しながら、お客様の期待に応えていきたいですね。」

今後は、仮想化技術をさらに活かしたサービスの提供も考えていきたいと井手氏は話してくれた。

「ゲーム コンテンツなど非常に大きな需要に対して、現在の 10G 回線でもまだ十分ではないところがあるので、ネットワークの増強は課題です。Cisco WAAS のような WAN 高速化ソリューションの活用、Cisco Nexus シリーズの上位モデルによる強化などを考えていますが、その際には管理ソフトウェアの Cisco UCS マネージャによるサーバとネットワークの統合管理で効率と信頼性も高められればと期待しています。」

複数のデータセンターにまたがった運用や、ディザスタ リカバリに特化したサービスの提供なども検討中です。ストレージを含め、仮想化の技術をうまく取り入れながら、お客様のニーズに応えるサービスを展開していきたいと思っています。」

株式会社イーツ



i²ts
Internet Information Technology & Services

本社所在地

東京都港区赤坂 2-14-4 森崎ビル 2F

設立

1999 年 9 月 20 日

資本金

4 億 4,300 万円 (2012 年 1 月 現在)

ハウジングサービス、ホスティングサービス、マネージド サービスを中核とした、データセンター ビジネスをトータルに展開しており、お客様のためのデータセンターを、安心のサービスと信頼の技術で提供。「お客様の IT ビジネス パートナーとして、安心と信頼のサービスを提供し、市場全体の成長に貢献します。」を経営理念として、常にお客様の視点に立ち、謙虚な姿勢を失うことなく誠実に事業活動を展開している。

Cisco UCS に搭載されたインテル® Xeon® プロセッサの実力

Cisco UCS C200 M2 は、Intel® Xeon® 5600 シリーズを使用した高密度 2 ソケット 1 RU ラックマウントサーバ。インテル® Xeon® プロセッサ 5600 番台は、アプリケーションの要求に応じて自動的に消費電力を



調整し、スマートにサーバのパフォーマンスを制御するため、電力効率と性能がいずれも最大限に向上。2.5 インチ (最大 8 つ) または 3.5 インチ (最大 4 つ) の内部 SAS / SATA ディスクドライブを総容量 8 テラバイト (TB) まで拡張可能。ネットワーク インフラ、Web サービス、データセンター、ブランチ オフィス、リモート オフィスなどさまざまな用途に対応できるパフォーマンスと効率性を実現する。

©2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、および Cisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は 2012 年 2 月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



お問い合わせ

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯電話・PHS 含む)

電話受付時間：平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>